

評価者	防災安全部長	柿崎 雅之
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	交通安全意識の高揚
目標とすべきま ちの姿	交通安全意識の普及徹底などの取組を推進することで、交通安全対策の必要性を市民が認知し、市民の交通安全意識が高まっています。 関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数は年々減少しています。 また、自転車利用者の交通マナーが向上し、市民が安心して暮らせる快適なまちとなっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	18.0%	平成27年度	17.6%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事の 効果	お金の使い方			お金の使い方			<p>&lt;妥当性の分析&gt;</p> <p>お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は48.1%と選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのが、お金は「足りない」、効果も「不十分」の15.0%である。</p> <p>市民意識の結果から、交通安全対策について、現状の取組でよいと感じているか、よりお金をかけて効果をあげて欲しいと感じている人の割合が大多数であることが窺える。</p> <p>このことから、交通安全対策については、さらなる拡大・充実を目指していくものとする。</p>
	必要以上の効果	1.7%	0.7%	0.7%	必要以上の効果	0.9%	
ちょうどよい	0.7%	47.9%	1.0%	ちょうどよい	1.6%	48.1%	0.7%
効果不十分	3.6%	6.4%	13.3%	効果不十分	3.4%	5.6%	15.0%

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	24.7%	48.6%	3.8%	22.8%	100.0%
平成27年度	23.5%	48.5%	4.1%	23.9%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

年間交通事故死者数を0人とする。 人命尊重の理念に基づき、交通事故による死傷者数を限りなくゼロに近づけ、交通事故のない社会を目指す。
---

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
防安-10	交通安全対策事業	17,241	16,148	36,230	35,711	2.5	2.5	b	B

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>新入学児童や幼稚園・保育園児を対象とした交通安全教室、小・中・高校生を対象とした自転車教室、成人、高齢者向けの交通安全教室等を実施した。 鎌倉・大船警察署等の関係機関、団体と連携しての交通安全キャンペーン等を実施した。 「鎌倉市自転車安全総合推進計画」に基づく施策の一つとして、「自転車左側通行」の路面標示を実施した。</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>
--

**(4) 平成27年度の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**  
 交通安全対策による効果が全てではないが、市内の交通事故発生件数は年々減少している。

**3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

子どもから高齢者まで、各世代に応じた交通安全教育の充実を図る。  
 自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進していく。  
 市内交通関係機関・団体相互の連携を密にして、総合的、効果的なスクールゾーン等での交通安全対策を推進していく。

**4 平成28年度の目標**

年間交通事故死者数を0人とする。

**5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)**

整理番号	防安-10	事業名	交通安全対策事業							
指標の内容	年間交通事故死者数を0人とする。					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
「第9次鎌倉市交通安全計画(平成23年度~27年度)」の目標値。平成28年度以降については、第10次計画の中で設定する。	目標値	0	0							
	実績値	2	3							
	達成率									

**参考 前年度外部評価結果への対応**

<p><b>鎌倉市民評価委員会からの指摘</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の方針名称が「意識の高揚」となっているが、課題である「高齢者・二輪車・自転車利用者対策」を切り口とした具体策に重点化したい。</li> <li>・高齢者・二輪車・自転車の関係する事故が、高い割合を示している現状を改善していく必要がある。</li> <li>・交通安全教室やキャンペーンの実施以外、あまり具体性がなく、有効性について「事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している」といえるだろうか。</li> </ul>	⇒	<p><b>指摘への対応、コメント等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教育については、幼稚園・保育園、小学校、子どもの家、中学校、高校、幼稚園に通う園児の保護者、自治町内会、老人福祉センター等で実施している。今後も、各世代別に、参加・体験・実践型の教育方法を取り入れた「交通安全教室」の充実・拡充を図っていく。</li> <li>交通ルール・マナーの徹底について、警察等の関係機関等と連携して、引き続き、周知・啓発に取り組んでいく。</li> <li>交通安全対策による効果が全てではないが、市内の交通事故の「発生件数」「負傷者数」とも、平成16年以降、毎年減少傾向にあるが、交通事故による死傷者数を限りなくゼロに近づけるよう、関係機関・団体と連携して、対策を進めていく。</li> </ul>
---	---	--

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・市民の交通安全意識は高まっている。(交通安全教室の成果)
- ・交通事故発生件数も少ないまちである。
- ・自転車左側通行の路面表示の実施は好評である。
- ・関係機関、団体及び市民の協力により、交通事故の発生件数が年々減少していることは評価できる。
- ・新入学児童や幼稚園・保育園児への交通安全教室、小・中・高校生への自転車教室、成人、高齢者向けの交通安全教室等の実施した。

		評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	2	↘	2	→	4			→
効果	○	1	△	1	-	6		-	

### 《課題》

- ・交通安全教室やキャンペーンの実施以外、あまり具体性がなく、有効性について「事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している」といえるか疑問である。
- ・交通事故による死亡者ゼロにするにあたり、具体的な問題は何かが明らかになっていない。
- ・交通安全教室の拡充とあるが、具体的にどのくらいの件数(対象人数なども)を増やしたのかが分からない。

### 《提言》

- ・子どもから高齢者まで、各世代に応じた交通安全教室・自転車教室の開催といったアピールが重要である。
- ・自転車マナー、ルール of 徹底をはかるため、自転車の安全利用の促進は継続して進めるべきである。さらに、自転車ショップと連携を図って、自転車の交通ルール of 徹底化に努めることも検討すべきである。
- ・そもそも鎌倉市内は道路幅が狭く、自転車での走行に適さないが、昨今の自転車ブームにより、市外から流入してくる自転車に対して、どの様な対策をとるのか、ロードプライシングのような抜本的な解決方法を検討すべきである。
- ・警察の協力を得て、サーフボードを携帯しての運転や歩道の走行など、自転車の違法運転取締りを行い、取締り回数と違反者数についても指標とすべきである。
- ・交通事故による死亡者ゼロは評価に充分値するが、重傷者、軽傷者、負傷者も指標に入れて計画を推進すべきである。
- ・指標が「交通事故死者数」となっているが、死亡者だけでなく、全体の件数も指標とすべきである。
- ・鎌倉警察署管内に限っては交通事故発生件数は増えており、鎌倉市に特徴的な「交通事故発生原因」(高齢者、観光客、道路状況等)を分析し、全国共通的な手立てとともに、鎌倉ならではの対策を打つことで発生件数の減少に繋げることも検討すべきである。観光客の多い管内であるから、他の警察署とは別枠の事業も検討すべきである。